

【第二幅】



- ①如来は百済の勅使2名とともに到着。
- ②内裏では異国の仏に対し朝議が二分し、崇仏派の蘇我稲目と排仏派の物部遠許志(尾輿)が対立する。
- ③一光三尊仏を稲目に下賜し、稲目は自宅に三尊仏を安置する。
- ④その後熱病が国中に流行。
- ⑤(熱病の流行は異国の仏を崇拝したためであるとして)三尊仏を猛火に投げ、溶かそうとするが、溶けないので打ち壊そうとするが壊れず、打ったものが血を吐く。
- ⑥遂に如来の到着した難波の堀江に投棄し、経典を焼き、僧侶を殺害する。
- ⑦黒雲にわかには湧き起こり、雲中より赤色の鬼神があらわれ、内裏が炎上する。
- ⑧天皇が重病となり、難波の堀江に沈めた如来を迎え、帰敬礼拝する。(後にまた難波の堀江に投棄)
- ⑨聖徳太子、物部の悪逆非道が増したため、討伐を決意。
- ⑩一時聖徳太子は敗走し追い詰められたが、椋の木の幹が裂けて、太子をかくまう。
- ⑪聖徳太子は四天王像を自刻し、勝利の暁には四天王寺を建立することを誓う。
- ⑫太子の願いが通じ、八幡大菩薩の幡を先頭に攻め寄せる。
- ⑬物部守屋が矢で射られ、合戦が終わる。
- ⑭太子は一光三尊仏を難波の堀江にお迎えに行くが「待て」との仏勅により帰京する。
- ⑮太子愛馬黒駒に乗り、富士を始め諸国巡遊(27歳)・42歳達磨に出会う。
- ⑯本田善光が難波の堀江を通りかかると、水中より一光三尊仏が善光の背に飛び乗る。